

映画で学ぶ 情報を見極める力 / 第6回

『JFK』授業ガイド

事実と主張を見分ける —— 『記録？ 再現？ 推測？』と問う。』

教員用・指導資料（対象：高校生以上）

📖 本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	事実と主張を見分ける（記録・再現・推測が混ざる映像と、陰謀論との向き合い方）
教材映画	『JFK』（原題 JFK／1991年・アメリカ／監督・脚本：オリバー・ストーン）
対象	高校生以上。暗殺の瞬間の記録映像（頭部への銃撃）や暴力的な場面を含む（下記参照）
時間	標準100分（50分×2）。作品は188分。場面を選んだ部分視聴を基本に
中心概念	主張する映画／記録・再現・推測の区別／陰謀論の特徴／政府発表を検証する正しい方法
ねらい	説得力のある映像ほど証拠と推測を分けて見る必要があることを理解し、陰謀論と向き合う方法を身につける
準備物	生徒用ワークシート（別PDF）／「記録・再現・推測」を分類する表／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 暗殺映像・陰謀説の扱い（最重要）

本作は暗殺の瞬間の記録映像（頭部への銃撃）や暴力的な場面を含みます。また、監督の主張を強く含む作品です。

- 年齢区分はソフト・配信により表示が異なる場合があるため、**上映前に確認**する。
- 暗殺の記録映像の場面は**上映しない**、または**事前に予告**し、見ない選択肢を用意する。
- 描かれた陰謀説を**事実として教えない**。「主張と事実を見分ける教材」として扱う。
- 「政府は信用できない」「すべて陰謀だ」といった極端な結論に流れないように、**検証の方法**に焦点を当てる。

📄 レイティング・著作権について

- 年齢区分は配信版・ソフトにより表示が異なる場合があります。使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 ケネディ大統領暗殺（予備知識）

何が起きたのか

1963年11月22日、テキサス州ダラスでパレード中のケネディ大統領が銃撃され、亡くなりました。オズワルドが逮捕されましたが、2日後に別の男に撃たれて死亡し、裁判は開かれませんでした。政府が設けた**ウォーレン委員会**は、「オズワルドの単独犯行」と結論づけました。

ギャリソン検事と映画の影響

ニューオーリンズの地方検事ジム・ギャリソンは、陰謀を主張して実業家クレイ・ショーを起訴しましたが、**1969年の裁判で無罪**となりました。映画の公開で関心が高まったことが一因となり、**1992年**に暗殺関連の記録を集めて公開する法律（JFK暗殺記録収集法）がつくられたとされます。

💡 「本物らしく見える」映像の力

この映画は、①**実際の記録映像**、②**俳優が演じた再現映像**、③「**こうだったかもしれない**」という**推測の映像**を、区別がつきにくい形でつないでいます。アカデミー賞で撮影賞・編集賞を受けた一方、歴史家や報道機関から「推測を事実のように見せている」と批判されました。

陰謀論と向き合う4つの視点（板書用）（板書用）

① 証拠と推測を分ける

確かめられた事実と、「こうかもしれない」を分ける。

② 反対の証拠も見る

自分の考えに合わない情報にも目を向ける。

③ 「全部つながる」に注意

何でも一つの陰謀で説明できる話は、かえって疑う。

④ 疑うこと自体は悪くない

発表を検証することは大切。ただし確かな方法で。

🎯 この授業の到達目標

映像の「記録・再現・推測」を区別する視点を持ち、陰謀論の特徴と、発表や情報を確かな方法で検証する手順を説明できる。

4 100分授業の流れ（50分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-10分	導入	「説得力のある映像を見たら、信じてしまう？」と問いかける。
10-22分	背景	暗殺事件、ウォーレン委員会、ギャリソン裁判の結果（無罪）を年表で確認。
22-48分	映画を観る①	ギャリソンが調査を始める場面、証言を集める場面（クリップ・暗殺映像は避ける）。
50-70分	映画を観る②	法廷での弁論の場面（クリップ）。記録・再現・推測を分類しながら見る。
70-88分	ワーク記入	場面を「記録・再現・推測」に分類し、陰謀論と向き合う4つの視点を当てはめる。
88-100分	共有・まとめ	板書「『記録？ 再現？ 推測？』と問う。」で締める。

🌱 まとめ

政府の発表を検証しようとすること自体は、民主主義にとって大切な姿勢です。ただし、その方法が「説得力のある映像」や「全部つながる物語」に頼ると、推測が事実のように広がってしまいます。映像を見たら「記録？ 再現？ 推測？」と問う——この習慣は、動画があふれる今こそ必要です。

5 映画の背景知識

原題／邦題	JFK／JFK
製作年・国	1991年・アメリカ。上映188分。日本公開：1992年
監督・脚本	オリバー・ストーン（『プラトーン』『7月4日に生まれて』でアカデミー監督賞）
受賞	アカデミー賞 撮影賞・編集賞
社会への影響	1992年のJFK暗殺記録収集法の制定につながった一因とされる。一方で「推測を事実のように見せている」と批判も

主なキャストと役柄

- ケビン・コスナー（ジム・ギャリソン役）：真相を追い続ける検事を、正義感あふれる人物として演じた。
- トミー・リー・ジョーンズ／ゲイリー・オールドマン（クレイ・ショー／オズワルド役）：実在の人物を演じている。

📷 市民が撮った記録

暗殺の瞬間をとらえた有名な映像は、見物に来ていた市民エイブラハム・ザブルーダーが家庭用カメラで撮影したもので、「ザブルーダー・フィルム」と呼ばれています。市民が撮った映像が歴史の重要な記録になった例です。

※上記の事実は公開情報（映画.com、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. この場面は「記録」「再現」「推測」のどれだと思う？ その根拠は？

→ 見分けにくいこと自体が、この映画の力であり危うさであることに気づかせる。

Q. 映画が社会を動かし、記録公開の法律につながったことをどう考える？

→ 映画の功績と、推測を事実のように見せた問題の両方を考えさせる。

Q. 陰謀論が広まりやすいのは、なぜだろう？

→ わかりやすさ、感情への訴え、「全部つながる」物語の魅力。SNSとの関係にも広げる。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 映像を「記録・再現・推測」に分けて考えられているか。
- 陰謀論の特徴と、確かな検証の方法を区別して説明できているか。
- 極端な結論（すべて陰謀／すべて正しい）に流れず、根拠をもって書けているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	羅生門	証言はなぜ食い違うのか	中学生～
2	市民ケーン	メディアを持つ者の力	中学生～
3	父親たちの星条旗	一枚の写真がつくる「物語」	中学生～
4	スポットライト 世紀のスcoop	一次情報と裏づけ	高校生～
5	アルゴ	実話映画の脚色	中学生～
6	JFK	事実と主張を見分ける	高校生～
7	ソーシャル・ネットワーク	プライバシーと同意	高校生～
8	監視資本主義：デジタル社会がもたらす光と影	SNSのしくみを知る	中学生～

8 参考資料（主な出典）

JFK 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

Wikipedia「JFK (映画)」 [https://ja.wikipedia.org/wiki/JFK_\(映画\)](https://ja.wikipedia.org/wiki/JFK_(映画))

作品：映画『JFK』（1991年、監督オリバー・ストーン）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。